

第4回次期あいち経済労働ビジョン策定委員会 欠席委員意見要旨

委員名 大澤 健 (和歌山大学)

➤ 観光を中心に述べさせていただきます。

観光業は、代表的なサービス産業であること、そして外部との積極的な交流から成り立つ産業であること、という意味でこれからの経済社会が進むべき方向を示している産業です。

従来の観光は、来てもらってお金を落としてもらうということが中心でしたが、サービス化、交流促進という観光の特性をもっと活用すべきだと思います。その意味で、単なる既存産業へと足し算としてではなく、既存産業との掛け算になるように取り組むことが望まれます。ものづくり×観光、愛知の歴史×観光、環境×観光といった視点で取り組むことで、愛知県のポテンシャルを底上げできるとともに、愛知独自の観光のあり方も実現できます。

➤ その意味で、高付加価値化とイノベーションを基軸として、観光の進むべき方向を示しているのはとても良いと思います。この点をプラスずに取り組むことを期待します。

➤ その際に意識していただきたいのは、「県」として何をすべきかという点です。県は観光のプレイヤーではありませんし、市町村ほど現場に近くありません。それだけに、現場のプレイヤーや市町村との関係を意識しながら、何をすべきかを常に考えてほしいと思います。

➤ また、県庁内の多様な部署の連携によって観光に取り組む必要もあります。上に書いたように「掛け算」の観光を実現していくためには、庁内の連携も不可欠です。施策構築の段階で、いくつかの象徴的なプロジェクトを立ち上げても面白いと思います。

➤ 愛知県の観光はやればやっただけ成果が出ます。動きを止めずに、高い目標を常に見つめながら、本気で取り組むことを期待しています。

第4回次期あいち経済労働ビジョン策定委員会 欠席委員意見要旨

委員名 加藤 俊彦（愛知県職業能力開発協会）

- 愛知県では、自動車産業を中心に多くの産業人材、とりわけ多様な技能士層が活躍しているが、少子高齢化や若年層の技能職離れにより、技能士を始めモノづくり人材の確保・育成は喫緊の課題となっている。
- ビジョン策定において、「技能士数」を指標として設定していただいたことは、技能尊重の社会的気運を高め、若年層の技能職離れを防ぐ効果的な仕掛けになると思う。
- 県には、全国一の技能士数の指標で成果を見る化しつつ、技能継承支援など技能尊重の社会的気運づくり、働きやすい環境整備を進めていただくことを期待する。
- 特に、若年層へ技能の魅力を発信するため、地元愛知で連続開催される「技能五輪全国大会」や「2028年技能五輪国際大会」の機会をとらえ、若年技能者や工科高校生らが、子供たちにモノづくりの楽しさを伝える機会や、こうした仕掛けを拡充していただきたい。
- また、労働力不足を補っている外国人材を技能士として積極的に育成・確保するため、外国人が暮らしやすい環境づくりにも引き続き取り組んでいただきたい。